

2024年6月

CWS JAPAN NEWSLETTER NO.93

いつもCWS Japanの活動に温かいご支援、
ご理解をいただき、ありがとうございます

世界難民の日 に寄せて —仲間としての難民たち—

こんにちは！CWS Japanです。
毎年6月20日は国連が制定した「世界難民の日」ということから、今月は難民支援に関するイベントが各地で開催されます。そこで、今回は私たちが大切にしている価値観のひとつ「難民との協働」の経験についてお話しします。

積み重ねてきた難民たちとの協働

5月18日、私たちは難民の仲間たちと共に大久保地域センターが主催する五月まつりにコミュニティ・カフェ@大久保として出店しました。これまでもワールド・バザールを主催したり、大久保まつりに出店したりと、難民申請者、外国ルーツの在日外国人との協働という経験を積み重ねてきました。

私たちがこのような地域行事に積極的に参加するのは、一つには難民の尊厳を守るという目的があります。難民申請者の多くはその不安定な身分により就労できず、地域社会とのつながりも持てないまま見えない存在となり、孤立し、困窮した生活状況にあるため、常に支援を求めざるを得ない立場にいます。

そこで、支援する立場にいる私たちとの間には支援する者とされる者という上下関係が自ずと作られていってしまいます。

難民は様々な制限下で不安定な身分ではあっても才能やスキルを持っていたり、若さや体力などの強みもあります。ただ、それらを発揮できる機会や場がないだけです。

ところが、このようなイベント行事には多くの共同作業が発生し、お互いの強みを生かし、協力しあわなければ無事に出店ができません。そこには同じ目的で集まって協働する「仲間」という対等な関係性が成立します。その点を私たちは大事に思っており、その想いを共感してくれる仲間たちと「また一緒に活動できて嬉しいよ」「また次も一緒にやろうね」という想いを伝えながらも集まれる機会や場づくりがやみつきになっている今日このごろです。

そこで、そのような輪に新たに加わったCWS Japanの新人スタッフ（五十嵐望美）から、初めて参加した五月まつりについてレポートしてもらいます。



五月まつりチラシ

五月まつりで「多文化コミュニティカフェ」出店

この度、大久保地域センターで開催された五月まつりに出店いたしました🎉

当日は大久保地域周辺のさまざまな団体が出店している中、コミュニティ・カフェ@大久保は「多文化コミュニティカフェ」と題して、私たちと関わりのある、外国人の方によるさまざまな出し物を提供しました。



チュニジアのブリック ©CWS Japan

ほかにも、エジプトのアクセサリーや雑貨、当事者の方が描いた絵のポストカードも販売しました。なかなか目にしないものも多くあり、それぞれ気になるものを手に取りながらお気に入りのものを買ってくださる方もいました。



地域センター3階会議室スペースで
出店したブースの様子 ©CWS Japan

ドリンクではコーヒーのほかに、ラッシーとチャイ、フードではその日に手作りしたスリランカのパンケーキやチュニジアのブリック(卵の包み揚げ料理)を提供しました。

会場に来て下さった方は普段見慣れない食べ物に対して興味津々になり、料理を作った本人に質問しながらコミュニケーションを取りつつ、それぞれのフード・ドリンクを味わっていただきました。



エジプト雑貨と手作りのビーズ細工 ©CWS Japan



難民当事者による絵画のポストカード ©CWS Japan



スリランカパンケーキ ©CWS Japan

また、今回の五月祭りでは、普段CWS Japanと一緒に事業をしている現地パートナー団体の方が以前持ってきてくださったアフガニスタンの民族衣装を持参し、会場に来られた方に試着してもらえるようにしました！👗

この民族衣装はいただいて以来、事務所の片隅にしばらく置きっぱなしだったのですが、こうして日の目を浴びて、子どもからご年配の方まで衣装の試着を楽しんでいただきました。

そして、これから。 私たちが目指す多文化共生

これからもこのような地域行事には参加していきたいと考えていますが、こうした大きなイベントはそう頻繁にあるわけではありません。祭りで盛り上がった後には、それぞれの日常がまた続いていき、再び不安感・孤立感が難民たちを襲います。

そんな中、就労許可がまだおりず、支援者以外の日本人と交流する機会がない難民の中でほかの活動にも興味を示す若者が出始めています。私たちはその気持ちを受け止め、難民による地域貢献の機会と場を創り出すことを目指します。支援されるばかりの存在から支援する側に回ることで、難民が地域の中で「人財」として認知されること、それが私たちが目指す多文化共生であり、共助です。

(文：ディレクター
牧由希子・五十嵐望美)



みなさんそれぞれお似合いです😊 ©CWS Japan



ポストカード作者のAさんと📷👍 ©CWS Japan

世界の難民の現状

「難民」のほかにいる 「人道支援を必要として いる人びと」と、 新たな「難民」とは

「難民」とは？

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）によると、2023年に全世界の難民の総数は3,000万人を突破し、2024年現在、その数は3,600万人を越えたと言われています。これは世界第2次大戦以降最悪の規模に膨らんでいます。

[UNHCR公式サイト](#)

皆さんは「難民」と聞くとどのような人か、思い浮かべるでしょうか。戦争や紛争の影響を受けて、命からがら祖国を逃れてきた人たち。人道支援を必要としている人たち。そんなイメージをお持ちの方も多くいるかと思いますが。

UNHCRでは、下記のとおり説明されています。

「1950年UNHCR事務所規程、1951年難民条約、1967年難民議定書において、難民は、人種、宗教、国籍、政治的意見または特定の社会集団に属するという理由で、自国にいて迫害を受けるおそれがあるために他国に逃れ、国際的保護を必要とする人々」



ここでいう狭義の「難民」とは、社会・政治的事由により国境を超えて他国に逃れ、保護が必要だと所定の条約・規定等に照らし合わせて認められた人々とも言い換えられます。

「難民」のほかにいる

「人道支援を必要としている人びと」

ここで狭義の「難民」を離れて、そのほかに「人道支援を必要としている人びと」とはどのような人かいるでしょうか。

国内避難民

英語でIDPs (Internally Displaced Persons)といます。難民が「国境を超えて」逃れた人びとであるのに対し、自国内で逃れている人びとを指します。

法的立場の弱い国外ではなく自国に留まっている人ということで難民より有利な立場かと誤解されることもありますが、迫害を受ける自国を脱出するだけの手段や方法を得られない、より弱い立場であるという場合が多くあります。前述のUNHCRのデータによると2024年の「難民」は3千6百万人超であるのに対し、IDPsは6千2百万人を超えています。当該国政府自体が迫害を加えている場合は、外部からのIDPs支援が難しいというのも特徴的です。

庇護(ひご)希望者

英語でAsylum Seekerといます。狭義の難民が国連や各国受入政府など公的認定を受けているのに対し、現在人道危機状態にあるが、こうした認定を受けておらず、これを求めている人々を意味します。

難民認定の有無を問わず、人道危機に直面している人々には、基本的人権に基づき支援を受ける権利があり、こうした人々を迅速に保護し、適切な支援が受けられるようにアクセスを確保することも人道支援の重要な役割の一つです。



帰還民

自国に戻った難民はすぐに元の生活に戻れるわけではありません。紛争や社会的荒廃により、生活基盤を失い、元いたコミュニティも消失している場合もあります。また、人によっては難民として何十年も自国を離れていた人や難民として逃れた先で生まれた人もいます。

こうした帰還民の新たな生活のスタートを支え、より確実に安定した復興を支援することも人道支援に欠かせない一つの側面です。



2023年に急増したパキスタンからの
アフガニスタン帰還民 ©Léo Torr é ton/IOM

無国籍者

難民として逃れた先で生まれ、自国でも避難先の国でも国籍を取得することが叶わないなど、そのほかさまざまな理由から無国籍者となっている人びとが世界には500万人弱います。

こうした人々は法的にもさらに弱い立場になっており、庇護を申請する際にも公的書類がないことから、かなりの不利益が生じています。

受入コミュニティ

自国を離れた難民の大多数は、その近隣国にいます。例えばアフガニスタン難民の最大の受け入れ国は隣国のパキスタンとイランになっています。

しかし紛争や戦争当事国の近隣国も社会的・経済的課題を抱えている場合も多く、さらに難民が物理的に流入する国境付近は、その国の首都から離れインフラが遅れていたり、経済的にも脆弱な地域であることが多くあります。

そうした難民を受け入れるコミュニティを支えることも、人道支援が果たす役割の一つとなっています。

新しい「難民」？

狭義の「難民」とは、1950年代から1960年代にかけて定められた条約等に照らし合わせて社会・政治的事由から逃れた人びとでした。しかし、地球規模課題は刻々と変化しています。例えば、海面上昇に伴い沈み行く大洋州の島国の人びとなど、気候変動や環境の変化などにより自国に住めなくなり、逃れた人びとは「環境難民」として認められるのでしょうか。

経済の崩壊などにより、飢餓に直面した貧困状態の人びとが自国から逃れようとするのを「経済難民」として認められるのでしょうか。

性的マイノリティを含むジェンダーなどに基づく差別が、法的または社会的構造として存在する国から逃れる人は「難民」なのでしょうか。



守れる命を守るために

人権に対する考え方や地球環境の変化を受けて、支援の対象者の定義やアプローチの仕方も見直されています。CWS Japanは「難民」という言葉の定義にとらわれることなく、一人ひとりの人間と向きあい、誰一人として必要としている支援から取り残されることが無い世界が実現できるように活動が続けていこうと、「世界難民の日」を目前に改めて想いを巡らせました。

柔軟で、きめ細かい支援を届けるためには、皆さまの理解と温かいご支援が必要です。今後とも引き続きの応援をお願いいたします。

(文：プログラム・マネージャー
五十嵐豪)

見えない所に 目を注ぐ インターン 中臺野乃花

初めまして。今年の6月からCWS Japanでインターンとして働いている中臺野乃花（なかだいののか）と申します。もうすぐ1カ月が経ちますが、すでに学校では学べない実践的な活動に携わることができ、非常に感謝しております！

難民や移民に興味を持ったきっかけ

現在、青山学院大学地球社会共生学部に所属しており、今年が最終学年です。この学部では、地球規模の課題に対してどうアプローチするか、コラボレーション領域（国際協力・開発学・環境）、ソシオロジー領域、経済・ビジネスの領域など、さまざまな視点で考えてきました。特に、2年次に「紛争・難民・平和構築」という授業を取り、移民・難民について興味を持ち、国内避難民と難民の違いや人間の安全保障といった専門的な学び、そして日本における難民認定の難しさといった現実的な面を知るきっかけになりました。

CWS Japanをインターン先に希望した理由

4年生になった今、思い返してみると学校での学び、難民に関する講演会への参加などすべて受動的だったと思われました。自分のキャリアを考えるうえで、これまでの学びを生かして実践的な活動がしたいと思うようになりました。

そう考えていた際に、CWS Japanの理事である小海光さんにCWS Japanの活動についてお話を伺いました。現場で困っている人に対してたくさんコミュニケーションを取りながらサポートしていく姿勢、若い世代の声を積極的に取り入れる姿勢、そうした姿に心を打たれインターンをしたと思いました。

実際に1カ月働いてみて

CWS Japanは災害支援や防災支援に力を入れておりますが、国内事業に携わったことで日本に住む難民や移民、高齢者など普段から社会的弱者となっている人々が災害時どのように取り残されるのかを知りました。

特に、先日行った防災まち歩きで新大久保を歩いてみて、学校は地域住民しか避難できなかったり、公園は開放される時間が決まっていたりとさまざまな制約があることに気づきました。活動を通して、普段の生活の中で目を向けられていなかったところに目を向けることの大切さを強く感じました。

さらに、大学でも学んだように難民認定が難しいことは知っていましたが、認定されていない人、在留資格のない人がコロナ禍で給付金を得られなかった、保険に入れず医療費が高額だった、仕事も不安定だという生の声を聴き、負の連鎖が生じていることを実感しました。

社会的に取り残される人々は通常時から脆弱ですが、コミュニティ・カフェや日本語支援を通じて日々のつながりによって彼ら、彼女らの居場所ができ、被災時に頼れる場所になれるように私も積極的に取り組んでまいります！

（文：インターン 中臺野乃花）



今年の2月、ちょうどカンボジアに行ったのでその時の写真

農村地域における 災害復興と 防災力向上支援 プロジェクトを開始 パキスタン出張報告

パキスタン・シンド州の農村地域における災害復興と防災力向上支援プロジェクトを2024年3月に開始したため、現地パートナーとの打ち合わせや現場の視察のために行った出張について報告いたします。

気候変動の影響で 繰り返し発生する洪水

ラニーニャ現象の影響を受けた2022年の大洪水は、パキスタンの国土の約3分の1を水没させるという大きな被害を残しました。

以前からCWS Japanが支援活動を実施してきたシンド州は、洪水の被害が最も大きかった地域の一つでした。私たちも被災者に対する緊急支援として現金や農具の供与を洪水後から2023年まで実施しました。2024年3月に開始した今回のプロジェクトは緊急支援に続き、将来的に発生する災害に備えた防災力の強化を伴う復興を目的としています

▼2022年の洪水から1年後に
パキスタンを訪れた時のレポートはこちら



●●
【事業終了報告】
甚大な被害を出した
洪水から1年後の
パキスタンを訪問して

たった一人のためにも、世界をつなげたい
CWS JAPAN
Church World Service

甚大な被害を出した洪水から一年後のパキスタンを訪問して | CWSJapan

こんにちは！イガラシゴーです🇯🇵日本も含め世界の各地でさまざまな災害や人道危機が断続的に発生しているため、「もう一年も経ったのか」という気もする一方で、「まだ一年しか経っていないのか」という気もします。国土の3分の1が影響を受けた水害 2022...

n note (ノート) / Sep 15, 2023



2022年の洪水で膝丈まで上がった水位の中を
家財を持って避難する人びと ©CWSA

パキスタンは2010年にも大規模な洪水に襲われましたが、近年は小規模な洪水も頻繁に発生しています。ヒマラヤを源流とするインダス川の最下流域にあたるシンド州の多くは氾濫原はんらんげんにあたり、その長い流域のどこかで大雨が降ると、影響を受けやすい地域でもあります。

平らな地形を利用し灌漑かんがい施設が発達し、農業が盛んに行われている地域ですが、一度洪水が発生すると、その平らな地形のため、どちらから水が襲ってくるのかを予想するのが難しい地域にもなっています。



平らな地形を活かして綿花や唐辛子などの栽培が
盛んに行われている ©CWS Japan

洪水に悩まされている土地が、同時に熱波や干ばつにも見舞われる？

洪水に悩まされている土地が、同時に熱波や干ばつにも見舞われるという不思議に思う方もいるかもしれませんが、気候変動は単純に気温が上がるまたは下がるのみではなく、その差が非常に極端になるというケースも見られます。

今回私が同地を訪れた時も、最高気温47℃（！）を記録するほどの熱波に襲われていました。農作物を育てるのに十分な水量を確保できずに枯れてしまった畑だけでなく、2022年の洪水で塩害が発生したが、土壌を改善させるための水が確保できずに放置されている休耕地も散見されました。



芽が出たがそのまま枯れてしまった唐辛子 ©CWS Japan



水不足のため、手前の畑は休耕状態 ©CWS Japan

水の管理と浸水域の把握が大切

洪水と干ばつという一見すると相反する事象ですが、どちらにおいても大切なことは水資源の適切な管理です。

今回のプロジェクトでは、2022年洪水の被害が大きかったシンド州の6村を対象として、灌漑用水路や溜め池の整備を支援すると同時に、地域住民への防災や気候変動に対応する農法などの啓発普及や、同地域を管理する行政官や地域の人びとを巻き込んだハザードマップ作りの研修を実施する予定です。

特にハザードマップ作りでは、以前同地域で衛星写真を用いて地下水の分析をする際に用いた地理情報システムQGISを用いて、地域住民の過去の洪水被害の記録や記憶を地図上に示しながら作成していく予定です。高低差の少ない地域における洪水被害の予想は非常に難しく、地形判読だけでなく、過去の浸水域の記録も非常に重要な役割を担います。



現地住民から浸水域を聞き取る
現地パートナー団体職員(中央) ©CWS Japan

常に地域住民と共に、地域が主体となる支援を

2022年の洪水支援時に続いて同地域を訪問した私を、地域の人びとは温かく迎えてくれました。パキスタンでも開発の遅れる同地域を、洪水後の緊急支援に続き、復興や防災へと継続的な支援を実施するCWS Japanとそれを支える支援者の皆さまへの感謝の言葉をいただきました。

私は挨拶の中で、今回の支援計画で最も重要なことは、地域住民の主体性であることを改めて強調しました。

インフラを建設しても管理が疎かになれば意味がないですし、研修を行ってもそこで得た知識を活用できるかどうかは当事者のコミットメントに左右されます。

CWS Japanは、あくまでも前に進むとする地域住民を後ろから支える役割であり、リードするのは地域住民であることを確認し、共に手を取り合って計画を進めることを誓いました。



地域住民との意見交換会の様子。
中央がCWS Japan職員の五十嵐豪 ©CWS Japan

この支援は日本政府の外務省「日本NGO連携無償資金協力」に加え、皆さまの温かいご寄付に支えられて実施しています。今後とも引き続きの応援をお願いいたします。

(文：プログラム・マネージャー
五十嵐豪)

 **皆さまのご理解・ご支援を
心よりお願い申し上げます。**

**継続的な
寄付**

**今回のみ
寄付**

さまざまなSNSで 情報をお届けしています

CWS Japanでは各種SNSで、日ごろから情報をお届けしています。お好きな方法で最新情報をぜひチェックしてみてください



各種SNSは
ここをクリックor
QRコード読み込み



特定非営利活動法人CWS Japan
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館25号室

メールアドレス：
public@cwsjapan.jp
電話：
03-6457-6840



[CWSJapan](#)



[@Japan_CWS](#)



[cws_japan](#)